

# 希少糖プロジェクト

代表者 紀谷拓音（医学部医学科3年）

## 1. 目的と概要

本プロジェクト事業は、香川大学の特色ある研究分野である希少糖の認知度向上を目標としています。希少糖は血糖値の上昇を抑えるなどの様々な健康増進作用を持っており今後も大きな可能性を持っている分野であると言えます。にもかかわらず日本全国ではもちろん、香川県内であってもその認知度は十分であるとは言えないのが現状です。この分野を今後さらに発展させていくために、知名度の上昇や正しい知識の認知を広げていくことが重要であると考え活動を開始しました。また本プロジェクトにおいて地域の方々とふれあうことによって閉鎖的になりがちな学生生活を改善し、学生生活の活性充実も目標としています。

## 2. 実施期間（実施日）

令和元年7月1日から 令和2年3月31日まで

## 3. 成果の内容及びその分析・評価等

このプロジェクト事業では主に2つの活動を行いました。

一つは三木まんで願祭りでのブース出展です。まず準備段階として香川大学副学長の徳田雅明先生から希少糖に関する講義をして頂き、活動メンバーが正しい知識を習得しました。そして本番では希少糖を実際に味見していただく「利き糖」と希少糖に関する知識をまとめたポスターを見ながらそれに関するクイズに答えていただく希少糖クイズを行いました。クイズでは景品として希少糖含有シロップを用意していたので皆さん真剣に解いていらっしゃいました。

この活動では当日約300人の方に来場して頂き、大盛況でした。この時に実施したアンケートの結果によると「今回の希少糖ブースで新しく得た知識や発見があった」と答



えた人は約 87%であり、活動の成果が感じられました。希少糖ブース全体に対しての満足度も 85%であり、来場者の方にも楽しんでいただけたことが分かり充実した活動でした。また、希少糖クイズによって来場者の方に自ら考えて理解していただくことができ、私たちが一方的に説明を重ねるよりも理解が進んだと思います。

2つ目は twitter での情報発信です。具体的には希少糖に関するクイズの出題や、希少糖を使った料理の紹介を行いました。希少糖クイズでは理解してもらえるよう簡単な補足情報や図を載せてわかりやすい説明を心がけました。また希少糖を使った料理の紹介では希少糖ならではの料理ではなくて、様々なジャンルの普段の料理に使う砂糖を希少糖に置き換えてもらうことを目的としました。

この活動ではまんで願祭りとは異なり、より不特定多数の方々に情報を発信できるという点で成果がありました。先述の通り実生活に結びつきやすい希少糖の情報を発信することで生活に簡単に希少糖を取り入れられるということをアピールすることができたと思っています。



Twitter で紹介した料理例

#### 4. この事業が本学や地域社会等に与えた影響

このプロジェクト事業を実施したことで、本学の研究成果の一つである希少糖の知名度の向上に貢献することができました。一般の人々に普段の生活ではほとんど意識することがない本学の研究の特色をアピールすることに繋がりました。本学の魅力度も上昇させることができたと考えています。

また地域社会の活性化という面でも希少糖は力を発揮します。香川県発の希少糖は日本全国、そして世界にもアピールすることができると思います。今回のプロジェクト事業によって地域の人々が県外に魅力を発信できるものがあると知って頂けることでこのアピールも進んでいくのではないのでしょうか。また、わずかではあるものの twitter を通して他地域にも香川の希少糖として拡散させられたことは私達自身も地域社会への貢献ができたと考えます。

## 5. 自分たちの学生生活に与えた影響や効果等

勿論、このプロジェクトを通して今まで深く理解できていなかった希少糖という分野について多くのことを学びました。特に先述の通り徳田先生にも講義をしていただくことでより専門的な理解も深まり、希少糖研究が最初に始められた本学の学生として誇れるものが得られたと思います。

しかしそれ以上に大きかったことは閉鎖的になりがちな学生生活の中で社会の人々と関わる機会が作れたことだと思っています。特に医学部の学生で構成されたこのプロジェクトとしては将来必ず必要になるコミュニケーションスキルを磨けたことは大きな収穫でした。医療従事者と患者の会話においては、医療従事者には専門的な医学知識をどんな人にもわかりやすく説明する力が求められます。今回の活動においても希少糖の専門的な健康増進作用などの知識をいかにわかりやすく説明できるかがポイントでした。このようなことから将来必要な能力を磨く良い機会となったと感じています。この経験は普段の大学の講義等では得ることができないものであり、今後の学生生活や将来に生かしていきます。

## 6. 反省点・今後の展望（計画）・感想等

反省点としては活動内容が限定的であったことが挙げられます。勿論、当初予定していた活動は全て行うことができましたが、ブースを設けて行うPR活動を他の場所でも行うことができるとより充実した活動になったと思います。また twitter を用いた活動も想定していたよりは少人数の閲覧にとどまってしまうもう少し影響を大きくするために同級生等を頼って活動を進めていけるとより多くの方に発信できたでしょう。

よって今後の展望としては来年度も三木ままで願での活動を続けると同時に他にも同様な活動ができる機会があれば参加を検討したいです。twitter での情報発信は継続しながら、今まで以上に内容を充実させ影響力を向上させていきたい。また他のアカウントの方とも結びつきを深め、希少糖に関連する企画や取り組みを知り、活動の幅を広げていきたいです。

全体としては特に問題もなく、非常に充実した活動を行うことができました。改めて、今回の活動では希少糖を通じて本学や地域社会への貢献は勿論のこと、私達活動メンバー自身が今後役に立つ経験ができたということがとても大きかったと思います。今後も活動を続けながら、貴重な経験を重ねていきたいです。

## 7. 実施メンバー

代表者 紀谷 拓音（医学部3年）

構成員 國定 浩大（医学部6年）

野々宮 隆盛（医学部4年）

矢野 晴美（医学部3年）

小倉 卓浩（医学部1年）

七條 直人（医学部6年）

関本 慶太郎（医学部3年）

稲田 花恋（医学部2年）

原 彩香（医学部1年）

## 8. 執行経費内訳書

配分予算額		89,399円		
執行経費(品目等)	数量	単価(円)	金額(円)	備考
方眼模造紙 2枚巻き 白	4	280	1,120	
紙用マッキー 12色セット	1		1,944	
上白糖 1kg	1		346	
グルコース食用 1kg	1		1,200	
果糖 1kg	1		588	
アルコールウエットティッシュ 400枚	2	1,830	3,660	
レアシュガースウィート 270g×20個	5	15,000	75,000	
使い捨てミニスプーン 100個入り	4	400	1,600	
養生テープ 25m	2	215	430	
テーブルクロス 120×150	4	700	2,800	
ポリ袋 20L、10枚入り	1		171	
クリップボード 226×316×2.7 (mm)	5	108	540	
合計			89,399	